

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	酒井 雅洋
評価者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	成瀬 英之

	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	石川の優れた文化の継承・発展	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	人	113,500 (H29)	94,229 (H26)	109,831 (H27)	B
施策2	文化に親しむ環境づくり	兼六園周辺文化施設入館者数	人	813,000 (H29)	629,163 (H26)	895,525 (H27)	A
施策3	文化の交流・発信	音楽堂入場者数	人	265,000 (H29)	206,473 (H26)	262,241 (H27)	A

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題							課題に対する主な取り組み				評価	
施策	課題	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性
					(年度)	(年度)						
		音楽堂入場者数	人	265,000 (H29)	206,473 (H26)	262,241 (H27)	音楽堂自主事業費補助金	一般県民	15,000	15,000	A	継続
							地域文化振興推進事業費補助金	一般県民	10,000	10,000	B	継続
		再:美術館入館者数	人	467,500 (H29)	409,127 (H26)	448,456 (H27)	再:美術館展覧会費(企画展示費)	一般県民	56,354	52,712	B	継続
		再:歴史博物館入館者数	人	112,000 (H29)	— (H26)	185,206 (H27)	再:歴史博物館特別展示費	一般県民	37,211	39,113	A	継続
施策3	課題	再:石川四高記念文化交流館入館者数	人	173,100 (H29)	167,912 (H26)	187,385 (H27)	再:石川四高記念文化交流館事業費	一般県民	16,137	12,633	A	継続
		再:音楽堂入場者数	人	265,000 (H29)	206,473 (H26)	262,241 (H27)	再:音楽堂自主事業費補助金	一般県民	15,000	15,000	A	継続
		再:ラ・フォル・ジュルネ金沢音楽祭来場者数	人	100,000 (H27)	105,820 (H26)	122,024 (H27)	再:ラ・フォル・ジュルネ金沢開催費	一般県民	53,000	63,000	A	継続
		再:ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭参加団体数	団体	45 (H27)	— (H26)	44 (H27)	再:ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭開催費	一般県民	54,000	54,000	B	継続
		再:歴史博物館入館者数	人	112,000 (H29)	— (H26)	185,206 (H27)	再:歴史博物館特別展示費	一般県民	37,211	39,113	A	継続

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	美術館展覧会費(企画展示費)	事業開始年度	S58	事業終了予定年度		作成者	組 織	美術館
		根拠法令		職・氏名	企画管理専門員 新保 勝也		電話番号	076 - 231 - 7580 内線 6510
		計画等						

事業の背景・目的
 美術に対する理解を深めるため、特定のテーマにもとづく内外の作品による企画展を開催し、優れた美術鑑賞の場を提供する。

事業の概要

- 1 「百万石の名宝」
 - ①会期 平成27年4月24日～6月7日 45日間
 - ②展示内容

加賀藩前田家の歴代藩主は文化に深い関心を寄せたが、江戸時代前期、三代利常・五代綱紀の時代に「加賀文化」は確立したとされる。利常は茶の湯の精神を骨格とした美術工芸品を、綱紀は文書・典籍類を中心に名品を収集し、その後に続く藩主たちも文物の収集や美術工芸の発展に力を注いだ。それらのコレクションは、大正12年、前田利為により育徳財団が設立され、今日では前田育徳会として、国宝22点、重要文化財76点を含むわが国有数の文化財の封戸となっている。本展は北陸新幹線開業を記念して、前田育徳会の所蔵品を中心に加賀藩ゆかりの名品を展示し、藩政時代に大輪の花を咲かせた「加賀百万石の文化」の全貌を公開するものである。
- 2 「没後30年 鴨居玲展 一踊り候えー」
 - ①会期 平成27年9月12日～10月25日 44日間
 - ②展示内容

鴨居玲はすべての作品が自画像であるかのごとく、自己の内面を鋭くえぐり出し表現した画家であり、時を経て、なお多くの人々に熱狂的に支持されている。1969年、国内で数々の賞を受賞した後、新天地を求めてパリそしてスペインへ旅立った鴨居は、特にスペインのラ・マンチャ地方での村の人々との交流を通じ、モデルと自身の内面を重ねる多くの傑作を生み出した。本展は鴨居の没後30年の節目に当たり、自己の内面と向き合った画家を再検証することを趣旨として開催する。
- 3 「工芸にみる石川の巨匠」
 - ①会期 平成28年1月4日～2月14日 42日間
 - ②展示内容

石川県立美術館は、昭和34年の旧館開館以来、石川県の美術文化の継承と発展を担い、活発な美術館活動を推進してきた。その50年を超える活動のなかで、優れた美術作品の収集を積極的に行い、今日では3000点を上回るコレクションに至っている。とりわけ、藩政時代より伝統技術が受け継がれてきた工芸の分野においては、陶芸、漆工、染織、金工、木竹工など、あらゆるジャンルにわたって高い水準をもつ内容となっている。

こうした歴史のなか、石川の工芸界では今日まで5人の芸術院会員と22人の人間国宝を生んでおり、物故者の作品も交えて120点を展示する。これまで培ってきた石川の工芸技術の粋をご覧いただくとともに、作品の個性の美の輝きを感じ取っていただくものである。

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承・発展				評価	B
課題	石川の優れた文化の継承・発展					
施策	文化に親しむ環境づくり				評価	A
課題	文化に親しむ環境づくり					
	指標	美術館入館者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成29年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	467,500	360,740	408,642	511,440	409,127	448,456

事業費						
	(単位:千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算	14,291	20,189	31,528	17,316	56,354
	決算	14,277	20,189	31,140	16,250	52,712
一般	予算	9,291	8,182	6,144	6,144	7,344
	決算	9,274	8,035	4,073	6,909	22,923
事業費累計		14,277	34,466	65,606	81,856	134,568

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	日本美術の流れの上で評価される内外の美術品及び石川県に關係ある優れた美術品や貴重な文化財を鑑賞できる機会を提供することは、県民に芸術・文化の素晴らしさを伝えるとともに豊かな心を育むうえで有意義なことである。 企画展については、H26年度の企画展と比べ、北陸新幹線開業を見据えた企画である「加賀前田家百万石の名宝展」、「鴨居玲展」など比較的大規模な展覧会が多く、また、常設展についても、新幹線開業後、県外からの来館者数が増加し、入館者数が目標を上回った。 H27美術館入館者目標 437,000人 実績 448,456人
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	来館者アンケートなどの要望にきめ細やかに対応するとともに、美術館に何度も足を運んでもらえるような魅力ある展覧会を企画立案し、効果的なPR活動を実施することで、美術館のより一層の入館者増を目指す。 また、学芸員による展示解説や子供に対する普及活動の充実にも努め、県民に親しんでいただける美術館として、魅力を高めつつ、郷土の優れた美術品を後世に伝えられるよう、その保存にも万全を期したい。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	前田育徳会尊経閣文庫分館魅力発信事業	事業開始年度	H21	事業終了予定年度	-	作 成 者	組 織	県立美術館
		根拠法令 ・計画等					職・氏名	企画管理専門員 新保 勝也

事業の背景・目的
美術館リニューアルオープンに併せ「尊経閣文庫分館」が開設されたことを受け、前田育徳会尊経閣文庫の所蔵品のすばらしさを県民に紹介するためのPR事業を積極的に展開し、「尊経閣文庫分館」の周知と観覧者増を図る。

事業の概要

1 文化講座の開催

前田育徳会尊経閣文庫の所蔵品収集に力を注いだ加賀藩歴代藩主の姿を、前田家に関わる人及び他の大名家との比較を通して、深めていく連続講座として開催する。

開催回数 年3回

講座概要	第1回 前田綱紀について 講師 石川県立美術館館長 嶋崎 丞 氏	受講者数	142名
	第2回 芳春院まつ 講師 石川県立図書館史料編纂室委員 瀬戸 薫 氏		100名
	第3回 前田光高とその時代 講師 前金沢市立玉川図書館近世資料館館長 宇佐美 孝 氏		125名

講 師 歴史家、郷土史家等の著名人

会 場 石川県立美術館ホール

対 象 者 一 般

定 員 各回200人

特 典 講座参加者は、講座当日のコレクション展観覧料は無料

2 尊経閣文庫のパンフレット作成

前田育徳会尊経閣文庫の文化財等所蔵品のすばらしさを県民に紹介するため、PR用パンフレットを作成する。

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承・発展	評価	B			
課題	石川の優れた文化の継承・発展					
	指標	美術館入館者数	単位	人		
	目標値	現状値				
	平成29年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	467,500	360,740	408,642	511,440	409,127	448,456
事業費						
	(単位:千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算	1,000	750	639	462	370
	決算	950	749	594	462	370
一般	予算	1,000	750	639	462	370
	決算	950	749	594	462	370
事業費累計		4,200	4,949	5,543	6,005	6,375
評価						
	項目	評価	左記の評価の理由			
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)		B	前田育徳会や尊経閣文庫の優れた文化財などを県民に知ってもらい講座の開催及びPR用のパンフレットを作成し、公民館や大学等教育機関にも幅広く配布することにより美術館の魅力アップに貢献した。 ・受講者数 H26:650名 H27:367名(283人減)			
	今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	尊経閣文庫分館の魅力を高めることは美術館の集客アップにもつながることから、今後も加賀藩の歴史と豊かな文化を伝える講座の開催やPR活動の充実に努めることにより、尊経閣文庫分館を鑑賞する機会を広げていく。			

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 歴史博物館資料展示費(特別展費)	事業開始年度	S 62	事業終了予定年度	
	根拠法令			
	・計画等			

作成者	組織	歴史博物館			
	職・氏名	総務課担当課長 皆戸 靖彦			
	電話番号	076 - 262 - 3236 内線 6511			

事業の背景・目的
 常設展とは別に独自のテーマにスポットをあて、考古・歴史・民俗等の貴重な資料を基に特別企画による展示を行い県民等が歴史に親しみ、さらに認識を深める一助となるよう郷土の歴史の展示公開を通して歴史の一端を紹介する。

1 春季特別展

展覧会名称:「江戸と金沢―北國下街道を歩いた人びと―」
 開催期間:4月17日(金)～5月31日(日) 45日間
 入館者数:14, 053人
 概要:北陸新幹線金沢開業記念として、金沢と江戸の交流の歴史を、参勤交代、加賀藩邸と江戸の名所、街道をゆく、金沢城と城下、文化の交流などのテーマから探った。また、会期中は、旧北國街道を歩くワークショップなども実施した。

2 夏季特別展

展覧会名称:大鉄道展
 開催期間:7月18日(土)～8月23日(日) 37日間
 入館者数:11, 454人
 概要:昭和39年の開通から約50年の歴史をもつ新幹線。夢の超特急と呼ばれた最高テクノロジーの開発にかけた当時の人々の熱い思いをたどるとともに、石川県における鉄道と人々の関係を文化史的な側面からとらえた。ほかに夏休み向けに子供や家族が楽しめる体験型展示やアトラクションも複数企画した。

3 秋季特別展

展覧会名称:朝鮮王朝一宴と儀礼の世界―
 開催期間:9月13日(日)～11月8日(日) 57日間
 入館者数:16, 404人
 概要:1392年の建国以来500年余り存続した朝鮮王朝。本展では、国立中央博物館や国立全州博物館など韓国各地の博物館から集めた貴重な資料を通し、宮廷で執り行われた華麗な儀礼や盛大な宴の世界を中心に朝鮮王朝時代の文化を紹介した。また、会期中は韓国文化に楽しく触れられるハンズオン・衣裳体験・演奏会・韓国映画上映会などを実施した。

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承・発展	評価	B			
課題	石川の優れた文化の継承・発展					
施策	文化に親しむ環境づくり	評価	A			
課題	文化に親しむ環境づくり					
施策	文化の交流と発信	評価	A			
課題	文化の交流と発信					
	指標	歴史博物館入館者数	単位	人		
	目標値	現状値				
	平成29年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	112,000	89,961	72,388	-	-	185,206

事業費						
(単位:千円)		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算	5,568	5,180	0	0	37,211
	決算			0	0	39,113
一般	予算	1,569	1,533	0	0	13,943
	決算			0	0	19,220
事業費累計		189,810	194,990	194,990	194,990	234,103

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A 左記の評価の理由 展覧会の魅力をアップするために、春季・夏季・秋季ともリニューアル前に比べて展示規模を拡大させ、さらにさまざまな関連事業を実施した。その結果、多くの集客があり、また館内アンケートでも満足したという意見が大半をしめ、想像以上の成果を得たと評価している。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続 展覧会事業は博物館の中核事業である。今後も石川県の歴史や文化の魅力を新たな視点から発信するとともに、歴史や文化にさまざまな人々に親しんでもらえるよう事業に工夫を加えていく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 石川四高記念文化交流館事業費	事業開始年度	H20	事業終了予定年度	
	根拠法令 ・計画等			

作	組	石川四高記念文化交流館
成	職・氏名	専門員 橋本 秀幸
者	電話番号	076 - 262 - 5464

事業の背景・目的

石川四高記念文化交流館は、四高の歴史と伝統を伝える展示に加え、旧四高の教室を多目的に利用できる「石川四高記念館」と石川県ゆかりの文学者の資料を展示する「石川近代文学館」によって構成され、兼六園周辺文化の森の新しい「学びとふれあいの複合文化スペース」として平成20年4月に開館した。これらの施設を多くの方々に利用していただくため、企画展示やイベント等を実施する。

事業の概要

- 1 石川四高記念館
 - ・施設の概要
 - 四高と四高生を育んだ風土と時代を知るための展示
 - 旧四高教室を学習や発表の場として利用できる多目的利用室(有料)の設置
 - ・主な事業
 - 常設展示(4室)
 - 企画展の実施
 - 赤レンガ建物展 (4月～3月)
 - 小中学校絵画展
 - 三文豪館とのスタンプラリー
 - 講座の開催(フレッシュ新三々塾 年4回) など

- 2 石川近代文学館
 - ・施設の概要
 - 石川県ゆかりの文学者の著書・原稿・愛蔵品等を一堂に集めた総合文学館(公益財団法人石川近代文学館へ事業を委託)
 - ・主な事業
 - 常設展示(8室)
 - 企画展の実施
 - 「妖怪・怪談えほん原画展」 (4/18～8/23)
 - 平成25年度の「怪談えほん」、平成26年度の「妖怪えほん」の各原画展が好評だったことから、各展示で紹介できなかった新作の原画を展示する。
 - 「うたえ！□(詩歌句)街の仲間たち！」 (9/19～11/29)
 - 平成26年度の特別展示「月に吠えらんねえ」刊行記念 室生犀星と□街の仲間たち」で展示することが出来なかった文学資料等を取り上げるとともに、地元ゆかりの短詞型作家の顕彰を図る。
 - 「作家と酒と食 ほろ酔い文学展」 (1/9～3/20)
 - 石川県にゆかりのある作家の酒に関するエピソードや文学作品、石川県の食と酒を愛した文学者の言葉などを通じ、文学者の人間らしい一面や、石川県の魅力を再認識する。
 - ワークショップ、イベント(朗読会、文学講座、研究会など)の実施

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承・発展	評価	B			
課題	石川の優れた文化の継承・発展					
施策	文化に親しむ環境づくり	評価	A			
課題	文化に親しむ環境づくり					
	指標	石川四高記念文化交流館入館者数	単位	人		
	目標値	現状値				
	平成29年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	173,100	132,380	134,003	144,221	167,912	187,385

事業費						
(単位:千円)		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算	15,322	15,754	15,289	16,137	16,137
	決算	14,640	15,511	15,133	15,550	12,633
一般	予算	12,354	12,354	12,455	12,517	12,517
	決算	12,353	12,851	13,128	13,195	8,440
事業費累計		60,728	76,239	91,372	106,922	119,555

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	石川四高記念館においては、全国赤レンガ建物展などの企画展を実施した。多目的利用室においては大学のサテライト教室や文学講座に利用されているほか、四高出身者等による講座「フレッシュ新三々塾」や朗読会などを行い、全体の利用者も前年度を上回り、多くの方々に文学の魅力を発信することができた。 H26実績:167,912人 H27実績:184,385人
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	企画展の実施や機をとらえた常設展の展示替えなどを行い館の魅力を高めていくほか、県内外の小中学校、旅行代理店、近隣の宿泊施設などにも積極的に広報活動を行い、館の存在をアピールしていく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭開催費	事業開始年度	H10	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等			

作	組	織	文化振興課		
成	職	氏名	主事 坪川 拓実		
者	電	話	番	号	076 - 225 - 1372 内線 3848

事業の背景・目的

県民の文化理解の向上を促進するとともに、本県の質の高い文化を県内外に発信する。これにより、県民が郷土に誇りを持ち、文化活動を通じ、活力ある地域づくりに自発的、積極的に参画する機運を醸成する。

- 事業の概要**
- 1 実施主体 2015ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭実行委員会、石川県、(一財)石川県芸術文化協会
 - 2 実施時期 平成27年9月6日(日)～11月30日(月)
 - 3 会場 県下一円(県立音楽堂、赤羽ホールを中心とする公共ホール)
 - 4 事業内容
 - (1) 芸術祭の中心となる音楽公演
 - (2) 本県ゆかりの芸能等公演
 - (3) 芸術文化団体による公演
 - (4) 協賛事業(芸術祭の趣旨に賛同する会期中の市町村、公共ホール自主事業、ただし財政的な支援はなし)
 - 5 参加団体数 約45団体
 - 6 事業費 負担金54,000千円
(交付先:2015ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭実行委員会)

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承・発展	評価	B			
課題	石川の優れた文化の継承・発展					
施策	文化の交流と発信	評価	A			
課題	文化の交流と発信					
	指標	ビエンナーレいしかわ参加団体者数	単位	団体		
	目標値	現状値				
	平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	45	44	準備年度	45	準備年度	44

事業費						
(単位:千円)		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算	54,000	2,300	54,000	2,300	54,000
	決算	54,000	2,300	54,000	2,300	54,000
一般財源	予算	54,000	2,300	54,000	2,300	54,000
	決算	54,000	2,300	54,000	2,300	54,000
事業費累計		394,100	396,400	450,400	452,700	506,700

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	平成4年度の国民文化祭、平成7年度のいしかわ秋の芸術祭、平成9年度の文化庁芸術祭石川公演の成果を生かし、隔年ごとに県内各地で音楽公演などを実施することにより地域文化活動の活性化を図り、本県の文化の発展に寄与してきたところである。 また、開催毎に市町等の協賛事業数は増加傾向にあり、本県の芸術文化を県内外に発信する事業として浸透している。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	本県では、2年に1度の総合的な文化芸術イベントとして、広く認知されているほか、本県の様々なジャンルの文化芸術団体の育成の場、発表の場として重要性が増していることから、今後も本県文化芸術の素晴らしさをアピールする場として、継続実施していく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 文化活動支援事業費	事業開始年度 H27	事業終了予定年度	作 組 織 文化振興課
	根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例	成 職・氏名 主任主事 高川 和也 電 話 番 号 076 - 225 - 1371 内線 3844

事業の背景・目的

県内の文化団体が新たに実施する文化活動に対して助成金を交付することにより、文化の担い手である県民の自主的・主体的な文化活動を支援し、本県の優れた文化の更なる向上と裾野の拡大を図る。

事業の概要

事 業 名	文化活動支援事業	
	文化創造普及事業	地域文化活性化事業
対 象 事 業	県全域を対象として文化活動を行う文化団体が実施する事業(新規性のあるものに限る)	市町において文化活動を行う文化団体が実施する事業(新規性のあるものに限る)
助成対象期間	最大3年間(初年度に事業認定)	
	初年度に助成金を一括交付	助成金は毎年度交付
助 成 率	最大で全体事業費の1/2	
	※次の①②のいずれか小さい額の範囲内かつ助成限度額の範囲内 ① 助成対象経費 × 1/2 ② 事業費 - 事業収入(入場料収入等)	
助成限度額	最大 300万円(3年間)	最大150万円(3年間)
	(1年間事業 10~100万円 2年間事業 20~200万円 3年間事業 30~300万円)	(毎年度 5~50万円)
申 請 方 法	基金へ直接申請	市町を経由して申請
審 査 方 法	民間有識者等による選考委員会において審査	

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承・発展				評価	B
課題	石川の優れた文化の継承・発展					
施策	文化に親しむ環境づくり				評価	A
課題	文化に親しむ環境づくり					
指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数			単位	人	
目標値	現状値					
	平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	13,500	13,199	12,679	11,609	13,200	12,235
事業費						
(単位:千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
事業費	予算				80,000	
	決算				61,276	
一般	予算				0	
財源	決算				0	
事業費累計		0	0	0	61,276	
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	平成27年度事業では、伝統芸能や音楽、文学、書道、演劇、舞踊、囲碁、将棋、ふるさと文化(地域固有の文化)など広範な分野について、助成枠を上回る応募があり、その中から、文化団体の創意溢れる様々な取り組み46件を事業認定・助成した。 これにより、文化団体の自主的・主体的な活動を促進し、本県文化の更なる向上と裾野の拡大に寄与している。				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	本県の優れた文化の更なる発展・継承を図るためには、これまでの継続的な文化活動に加え、創意あふれる新たな取り組みを通じた、担い手の研鑽と後継者の育成、及び県民の文化に親しむ機会の充実が不可欠であることから、引き続き本事業を通じて、文化団体のこうした自主的・主体的な活動の支援を継続する。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 いしかわの能楽鑑賞事業費	事業開始年度	H3	事業終了予定年度	
	根拠法令			
	・計画等			

作組	織	文化振興課			
成職	氏名	専門員 橋岡 千春			
者	電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3847			

事業の背景・目的
 定期的に能楽を上演、鑑賞する機会を設けることにより、能楽愛好者の増加と能楽楽師の技術向上の契機とし、もって本県の文化振興を図る。

事業の概要

内 容 「観能の夕べ」上演 能と狂言を各1番
 ①「夏の観能の夕べ」
 日 時 平成27年7月4日～8月29日 毎週土曜日
 午後6時30分～午後8時30分
 全9回(特別公演1回、一般公演8回)
 ②「冬の観能の夕べ」
 平成28年1月23日～3月5日の期間中 全5回(土曜日)
 午後2時30分～午後4時30分

会 場 石川県立能楽堂
 主 催 いしかわの能楽鑑賞事業実行委員会
 対 象 一般
 入場料 ①「夏の観能の夕べ」
 特別公演 3,000円/回
 一般公演 1,000円/回
 ②「冬の観能の夕べ」
 前売り 1,000円/回
 当日 1,200円/回

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承・発展				評価	B
課題	石川の優れた文化の継承・発展					
	指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	13,500	13,199	12,679	11,609	13,200	12,235
事業費						
	(単位:千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算	4,200	3,500	3,500	3,500	5,000
	決算	1,051	3,500	2,994	2,280	6,200
一般	予算	4,200	3,500	3,500	2,280	0
	決算	1,051	3,500	2,994	3,500	
事業費累計		61,351	64,851	67,845	70,125	76,325
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	「観能の夕べ」は、本県の豊かな古典芸能を代表する加賀宝生による優れた演能を低廉な価格で鑑賞する機会を提供するものであり、開催回数を増やすことでこれまで鑑賞できなかった層に鑑賞してもらうことができた。同様に開催回数を確保することにより能楽師の技術向上にも貢献している。 観能の夕べ入場者数 H27:3,613人(H26:3,581人) 開催回数 H27:14回(H26:11回) 全体事業費 H27:12,121千円(H26:10,013千円) 能楽堂利用者数 H27:50,524人(H26:48,017人)				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	多くの県民に伝統芸能である能楽を気軽に親しんでもらい、本県能楽界の振興・発展につなげるために重要であることから、今後も「観能の夕べ」を継続することで、能楽に触れる機会が少ない県民層を掘り起こし、さらなる能楽愛好者の裾野拡大を図っていく。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	伝統芸能技能向上支援事業	事業開始年度	H25	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等			

作組	織	文化振興課			
成職	氏名	主任主事 杉森 蓉子			
者	電話番号	076 - 225 - 1372	内線	3847	

事業の背景・目的
 藩政期から受け継がれてきた本県が誇る財産であり、魅力でもある金沢芸妓による質の高い伝統芸能について、芸の披露の場を創出することにより、県民や観光客が気軽に鑑賞する機会の充実を図るとともに、金沢芸妓の技能の向上と継承を図る。

事業の概要

- 芸の発表の場の創出
 - (1) 事業名
金沢芸妓の舞
 - (2) 事業内容
県民や観光客に、金沢芸妓による芸(踊り、太鼓、お座敷遊びなど)を披露する。
 - ①会場
県立音楽堂邦楽ホール和室
 - ②実施期間等
平成27年10月～平成28年3月の実施期間内に24回開催(3茶屋街×8回)
 - ③開催時間
午後2時～3時(1時間程度)
 - ④出演
ひがし、にし、主計町の各茶屋街の芸妓
 - ⑤対象者
県民や県外からの観光客(各回定員50名程度)

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承・発展	評価	B			
課題	石川の優れた文化の継承・発展					
	指標	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	単位	人		
	目標値	現状値				
	平成29年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	113,500	102,617	108,960	111,144	94,229	109,831

事業費						
	(単位:千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算			3,000	3,000	3,500
	決算			3,000	3,000	3,500
一般財源	予算			3,000	3,000	0
	決算			3,000	3,000	
事業費累計			0	3,000	6,000	9,500

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	「金沢芸妓の舞」は、藩政期から受け継がれてきた金沢芸妓による質の高い伝統芸能にふれる機会を県民や県外からの観光客に提供しているほか、公演回数を確保することにより金沢芸妓の技能向上にも貢献している。 「金沢芸妓の舞」入場者数 H27:1,336人(H26:1,054人) 開催回数 H27:24回(H26:21回) 平均入場者数 H27:56人(H26:50人) 音楽堂邦楽ホール利用者数 H27:59,316人(H26:46,212人)
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	拡大	多くの県民や県外からの観光客に、茶屋文化に気軽に親んでもらい、芸妓文化を保存・継承し、さらに磨きをかけていくことは大変重要であることから、今後も「金沢芸妓の舞」の上演を通じ、芸妓文化の一層の伝承、発展を図っていく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	いしかわ子ども伝統芸能チャレンジ推進事業費	事業開始年度	H27	事業終了予定年度	
		根拠法令			
		計画等			

作	組	文化振興課
成	職・氏名	主任主事 杉森 蓉子
者	電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3847

事業の背景・目的
 近年、伝統芸能に親しむ人の割合が減少傾向にあるため、県民の伝統芸能に対する関心を高めることにより、文化活動への参加を促していく必要がある。
 このため、次代の文化の担い手となる小中学生を対象に、実際に石川の豊かな伝統芸能に触れる機会を創出し、伝統芸能に興味を持ち始めるきっかけを作ることにより、すそ野の拡大を図る。

事業の概要
 次代を担う子どもたちが伝統芸能に興味を持ち始めるきっかけとなるよう、本県ならではの伝統芸能を実際に体験できる機会を提供する。

- 〈中央地区〉
- ・開催日:[練習]10/11～11/3の期間中に各プログラム3回 [発表会]11/3(火・祝)
 - ・会 場:石川県立能楽堂別館・本館
 - ・参加者:三味線10人、箏20人、舞踊39人、能楽10人

- 〈能登地区(珠洲市)〉
- ・開催日:[練習]11/14(土)、11/21(土)、11/29(日) [発表会]11/29(日)
 - ・会 場:文藝館、蛸島公民館
 - ・参加者:箏6人、三味線2人、尺八5人

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承・発展	評価	B			
課題	石川の優れた文化の継承・発展					
施策	文化に親しむ環境づくり	評価	A			
課題	文化に親しむ環境づくり					
	指標	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	単位	人		
	目標値	現状値				
	平成29年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	113,500	102,617	108,960	111,144	94,229	109,831

事業費						
	(単位:千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算					5,000
	決算					1,810
一般	予算					0
財源	決算					0
事業費累計		0	0	0	0	1,810

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B 参加者アンケートによると、体験した児童・生徒の約7割が、「伝統芸能に興味をもった」と回答しており、伝統芸能を体験する機会を提供することによって、子どもたちの伝統芸能への関心を高め、伝統芸能のすそ野の拡大に寄与している。 H27参加者数:92人
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	拡大 子どもたちにとって、普段触れる機会の少なくなった伝統芸能を体験できる貴重な場となり、参加者からもまた参加したいという意見が多く聞かれた。来年度からは伝統芸能だけでなく、様々な文化の体験の機会を提供していく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 いしかわミュージックアカデミー開催事業費	事業開始年度 H10	事業終了予定年度	作 組 織 文化振興課
	根拠法令・計画等		成 職・氏名 専門員 乾 康祐 者 電話番号 076 - 225 - 1372 内線 3850

事業の背景・目的
国内外の著名な講師による高いレベルのレッスンをを行い、世界に通用する若手音楽家の育成と石川の音楽文化の振興を図る。

- 事業の概要**
- 1 事業名 2015いしかわミュージックアカデミー
 - 2 期 間 平成27年8月18日(火)～27日(木) 10日間
 - 3 会 場 石川県立音楽堂、石川県青少年総合研修センター ほか
 - 4 主 催 いしかわミュージックアカデミー実行委員会 会長(石川県知事)谷本正憲
 - 5 内 容
 - (1) スクール部門
 - ① マスタークラス:プロを目指す若い音楽家を対象
ヴァイオリン50人、チェロ9人、ピアノ18人
 - ② 基礎クラス:地元で音楽を学ぶ人達を対象
ヴァイオリン5人、ピアノ13人
 - ③ 受講生ソロ発表会(マスタークラス受講生)
 - (2) コンサート部門
 - ① IMA講師チェンバーコンサート:IMA講師とOEKメンバーの共演
 - ② IMAライジングスターコンサート:過去のIMA音楽賞受賞者など若手演奏家によるコンサート
 - ③ ミニコンサート:受講生が県内各地を訪問して行うコンサート(県内各地の福祉施設等)
 - (3) 県内若手音楽家育成事業
 - ① IMA特別レッスン
IMA基礎クラスの受講生のうち特に優秀な者に対するIMA講師による個人レッスン
 - ② IMA無料体験レッスン
IMA講師による県内小中学生を対象とした体験レッスン(ピアノ、ヴァイオリン)
 - (4) フェローシップ制度
奨学生:優秀な受講生にIMA音楽賞を授与し、次年度のアカデミーに奨学生として招聘する。

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承・発展				評価	B
課題	石川の優れた文化の継承・発展					
	指標	いしかわミュージックアカデミー参加者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	4,000	4,598	4,984	3,480	4,550	3,029

事業費						
(単位:千円)		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算	15,175	14,420	14,420	14,420	15,920
	決算	15,175	14,420	14,420	14,420	15,920
一般	予算	15,175	14,420	14,420	14,420	14,420
財源	決算	15,175	14,420	14,420	14,420	14,420
事業費累計		388,575	402,995	417,415	431,835	447,755

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	C	昨年より鑑賞者数が減ったものの、若手育成の面では、世界的に著名な講師を迎え、レベルの高い個人レッスンを行っており、受講生の中から著名な国際コンクールや国内有数のコンクールに優勝及び上位入賞するなどの実績もあり、本県の音楽文化の発信に大きく寄与している。 また、県民に音楽を楽しむ機会の提供をするという点では、レッスンの一般公開のほか、IMA講師とOEKメンバーが共演するコンサートや受講生によるミニコンサートの開催などを行ったものの、昨年度より鑑賞者が減となった。 鑑賞者数 H27:3,029人 H26:4,550人
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	若手音楽家の育成事業である本事業では、近年、過去の受講生が講師となって石川に戻ったり、本県で開催されたコンサートに出演するなどの具体的な成果が表れている。このような効果をさらに発揮するため、今後も長期的な視野に立ち事業を継続していくとともに、県内の受講生をさらに増やすため、県内の小中学生向けの体験レッスンなどを実施していきたい。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	若手・中堅を対象とした文化活動顕彰事業費	事業開始年度	H27	事業終了予定年度		作成者	組織	文化振興課
		根拠法令				職・氏名	専門員	橋岡 千春
		計画等				電話番号	076 - 225 - 1372	内線

事業の背景・目的

平成27年4月1日施行の「いしかわ文化振興条例」に基づき、本県の文化の更なる高みを目指すためには、文化を担う人材の育成が不可欠である。
その効果的な施策として、顕彰制度を充実させることとし、各分野の第一人者を表彰する既存の「文化功労賞」のほかに、若手・中堅の活動実践者を表彰する「石川県文化奨励賞」を創設した。

事業の概要

石川県文化奨励賞贈呈式

- ① 日時 平成28年3月22日(火)(県庁4階特別会議室)
- ② 被表彰者 5名 田中義光、藤舎真衣、中町力、藤間寿、宮谷理香
- ③ 表彰対象
 - ・本県文化の担い手としての実績
 - ・文化の普及活動や地域貢献で顕著な活動実績
- ④ 文化奨励賞及び副賞贈呈

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	石川の優れた文化の継承・発展	評価	B			
課題	石川の優れた文化の継承・発展					
指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数			単位	人	
目標値	現状値					
平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
13,500	13,199	12,679	11,609	13,200	12,235	
事業費						
(単位:千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
事業費	予算				2,000	
	決算				1,768	
一般	予算				2,000	
財源	決算				1,768	
事業費累計		0	0	0	2,000	
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	「いしかわ文化振興条例」の制定を踏まえ、本県文化の次代を担う若手、中堅の個人に対し、今後一層の活躍を奨励することを目的に、美術工芸・音楽・舞台芸術などの各分野で活躍する者を奨励することで、本県の文化の発信にも資する。				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	若手、中堅の個人に対し「文化奨励賞」を贈呈することで、本県文化の次代を担う活動者のすそ野の拡大と、さらなる高みにつながる今後一層の活躍を奨励する。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 兼六園周辺文化の森「四季の文化回廊」事業費	事業開始年度	H17	事業終了予定年度	
	根拠法令			
	計画等			

作成者	組織	文化振興課			
	職・氏名	主幹 山川 恵子			
	電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3853			

事業の背景・目的
北陸新幹線の金沢開業と文化振興条例の制定を大きな契機ととらえ、首都圏をはじめ県内外の方々に藩政期より培われた本県が誇る質の高い伝統文化に触れてもらうため、四季折々に兼六園周辺文化の森で各施設の特長を活かしたイベントを開催する。

事業の概要
兼六園周辺文化の森「四季の文化回廊」事業の実施

(1) ミュージアムウィークの開催
 交付先: 兼六園周辺文化の森活性化推進実行委員会
 テーマ: 四季折々の「いしかわの本物の文化」に触れる

① 春～いしかわのおもてなし～
 新幹線開業による首都圏からの観光客をターゲットに「石川らしさ」でおもてなし
 時期: 5月2日(土)～6日(水・振) (GW期間中)
 内容: 「能楽講演会&能公演」、「金沢芸妓の舞」など

② 夏～いしかわの夜の魅力～
 夏休み期間中の子どもたちをターゲットに、親子で楽しめる夜の企画などを展開
 時期: 7月31日(金)～8月9日(日)
 内容: 「デジタル掛け軸」、「ナイトコンサート」など

③ 秋～いしかわの本物の文化の魅力～
 文化振興条例の制定とミュージアムウィーク開催10周年を記念して開催期間を拡大し、本物の文化に触れる機会とするため、集客力のあるイベントを大々的に展開
 時期: 10月18日(日)「いしかわ文化の日」～11月3日(火・祝)「いしかわ文化推進期間」
 内容: 伝統芸能に関する講演会と実演、スイーツ体験会など

④ 冬～いしかわの食の魅力～
 本県の冬の魅力である「食」を求めて来県する観光客をターゲットに食文化を発信
 時期: 平成28年3月6日(日)～13日(日)
 内容: 食の歴史に関する企画展と食談義、食を彩る器の企画展と講演会など

(2) 石川県・金沢市文化施設共通鑑賞パスポートの期間限定販売
 対象施設: 県5施設(美術館、歴史博物館、四高記念館、からくり記念館、銭屋五兵衛記念館) 市16施設(中村記念美術館、能楽美術館、鈴木大拙館など)

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	文化に親しむ環境づくり				評価	A
課題	文化に親しむ環境づくり					
	指標	兼六園周辺文化施設入館者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成29年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	813,000	642,716	673,840	712,928	629,163	895,525

事業費						
	(単位: 千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算	8,000	9,500	8,400	13,000	18,000
	決算	5,432	9,500	8,400	13,000	25,644
一般	予算	8,000	9,500	8,400	13,000	0
財源	決算	5,432	9,500	8,400	13,000	
事業費累計		48,032	57,532	65,932	78,932	104,576

評価	
項目	評価
左記の評価の理由	
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A これまで秋のみの開催だったミュージアムウィークを年4回、四季折々に拡大し、多彩な文化イベントや新規事業を展開した結果、季節に応じた趣向を凝らした鑑賞機会を提供することができ、また、一日あたりの各施設の入館者数も、過去3年間と比較して約1.4倍となり、これまで文化施設に訪れたことのない方の掘り起こしやリピーターの増加に大きく貢献した。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続 北陸新幹線金沢開業で増大した観光客をおもてなしし、「いしかわ文化振興条例」に定めた「県民が文化に親しむ機会の充実」、とりわけ子どもの文化体験の充実を図るため、兼六園周辺文化の森を拠点と位置付け、ミュージアムウィークをさらに拡大し、四季折々に魅力あるイベントを開催する。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 ラ・フォル・ジュルネ金沢開催費	事業開始年度	H20	事業終了予定年度	
	根拠法令・計画等			

作	組	織	文化振興課		
成	職	氏名	主事 菅谷内 梓		
者	電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3850			

事業の背景・目的
 フランス発祥のクラシック音楽祭「ラ・フォル・ジュルネ」は、2008年から金沢でも開催され、7年目となった2014年は、全国から10万人以上の観客を集め、音楽愛好家の拡大だけでなく、交流人口の拡大や石川の音楽文化の発信といった面でも着実に成果をあげてきている。
 2015年は3月の北陸新幹線金沢開業後初の開催であり、全国への発信の大きな機会でもある。世界的な音楽祭としてのブランドを活かし、街なかや加賀・能登地域での公演の充実を図りながら、更に首都圏・新幹線沿線の観客の誘客のための取り組みなどを充実させ、交流人口の拡大や地域の活性化につながる音楽祭として発展させていきたい。

- 事業の概要**
- 1 (1) 事業名:ラ・フォル・ジュルネ金沢「熱狂の日」音楽祭2015
 - (2) 開催時期:平成27年4月28日(火)～5月5日(火祝) 8日間
 - (3) 会場: 金沢市内(金沢駅周辺、金沢市中心部等)、加賀・能登地区、富山県内、福井県内
 - (4) 主催:ラ・フォル・ジュルネ金沢音楽祭実行委員会
 会長 前田 利祐 (第18代前田家当主)
 - (5) 内容:オーケストラ公演、合唱、室内楽公演、吹奏楽 ほか
 197公演(有料:68公演、無料:129公演)
 - (6) 主な出演者:**【国内】**
 オーケストラ・アンサンブル金沢、東京フィルハーモニー交響楽団
 北陸三県をはじめとする全国の演奏団体 ほか
【国外】
 コンセルトヘボウ室内アンサンブル(オランダ)、
 パリ・コロヌヌ室内アンサンブル(フランス) ほか
 - (7) 入場料:500円～3,000円
 - 2 負担金額 53,000千円

施策・課題の状況						
施策	文化に親しむ環境づくり	評価	A			
課題	文化に親しむ環境づくり					
施策	文化の交流・発信	評価	A			
課題	文化の交流・発信					
	指標	ラ・フォル・ジュルネ金沢音楽祭来場者数	単位	人		
	目標値	現状値				
	平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	100,000	118,355	104,771	103,322	105,820	122,024

事業費						
(単位:千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
事業費	予算	13,000	17,976	43,000	43,000	53,000
	決算	13,000	17,976	43,000	40,000	63,000
	一般	13,000	17,976	13,000	13,000	23,000
	財源	13,000	17,976	13,000	13,000	23,000
	事業費累計	28,000	45,976	88,976	128,976	191,976

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A 一流の演奏を低料金で提供し、0歳から入場できるコンサートを設けるなど、子どもから大人まで幅広く楽しめるクラシック音楽祭として、広く県民に周知され親しまれており、音楽ファンの拡大や石川からの音楽文化の発信だけでなく、交流人口の拡大や地域の賑わい創出にも寄与している。また、平成27年度は過去最高の来場者数を記録した。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続 本音楽祭は、誰もが足を運べる気軽さと、多彩なプログラムにより、来場者数が10万人を超えるなど、ゴールデンウィークにおけるイベントとして定着しており、本県の音楽文化の県内外への発信や、交流人口の拡大に寄与するところが大きいため、今後も石川らしい内容を盛り込むなどの工夫をしながら、継続開催する。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 子ども芸術鑑賞推進事業費	事業開始年度 S57	事業終了予定年度
	根拠法令・計画等	

作	組	織	文化振興課
成	職・氏名	主任主事 杉森 蓉子	
者	電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3847	

事業の背景・目的

子供たちに優れた舞台芸術鑑賞の機会を提供し芸術文化の振興を図るとともに、舞台芸術鑑賞能力の向上と豊かな情操の涵養に資する。

事業の概要

県内市町で下記の事業を実施する。

- 1 児童・生徒オーケストラ鑑賞教室
(公財)石川県音楽文化振興事業団(OEK)に委託 県内で5公演を実施
- 2 スクールシアター(児童演劇公演)
(公社)日本児童青少年演劇協会に委託 県内で8公演を実施
- 3 古典芸能鑑賞教室
「越後獅子」班 (杵屋弥三辰社中、田中杉芙勢社中、藤間勘菊社中)
「春の海」班 (釣谷雅楽房社中、前川晴笙中、藤間勘寿々社中)
この2班で県内6公演を実施

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	文化に親しむ環境づくり				評価	A
課題	文化に親しむ環境づくり					
	指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	13,500	13,199	12,679	11,609	13,200	12,235

事業費					
(単位:千円)					
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	4,521	4,231	4,231	4,231	4,231
予算	4,521	4,187	4,165	4,209	4,187
決算	4,521	4,231	4,231	4,231	0
財源	4,521	4,187	4,165	4,209	
決算	4,521	4,187	4,165	4,209	
事業費累計	280,781	284,968	289,133	293,342	297,529

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	県内の子どもたちにオーケストラや古典芸能など、優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより、豊かな感性と創造性をはぐくむことに寄与している。 H27鑑賞者数:7,215人(H26:8,670人) H27公演数:19回(H26:20回)
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	本物の芸術に触れる機会の少ない児童、生徒にとって、本事業は優れた舞台芸術に触れる等の貴重な経験のできる場となっており、実施校からは、芸術の素晴らしさを感じ、芸術愛好の心情の醸成につながるとの意見が多い。よって、引き続き、鑑賞や体験の機会を提供していく。 ただし、市町の財政状況等により開催希望数は減少しつつあり、今後は市町に積極的に開催希望数が増加するよう働きかけをしていく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	県民移動能実施事業費	事業開始年度	H2	事業終了予定年度		作組織	文化振興課
		根拠法令 ・計画等				成職・氏名	専門員 橋岡 千春
						者電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3847

事業の背景・目的
鑑賞機会が少ない地域に能楽師が出向き、児童・生徒等に生の舞台芸術にふれる機会を提供することにより、能楽愛好者の増加を図る。

事業の概要
県内市町にて2公演(1公演/1市町)下記事業を実施する。

内容
仕舞、舞囃子、狂言1番、能1番
開催市町の児童・生徒によるワークショップ

公演日、会場
①6月25日(木) 小松市立板津中学校体育館(鑑賞者:324名)
②10月8日(木) 津幡町立津幡中学校体育館(鑑賞者:217名)

これまでの見直し状況

施策・課題の状況							
施策	文化に親しむ環境づくり					評価	A
課題	文化に親しむ環境づくり						
	指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数			単位	人	
	目標値	現状値					
	平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	13,500	13,199	12,679	11,609	13,200	12,235	
事業費							
	(単位:千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
事業費	予算	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	
	決算	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	
一般	予算	0	0	0	0	0	
	決算	0	0	0	0	0	
財源		0	0	0	0	0	
事業費累計		66,000	69,000	72,000	75,000	78,000	
評価							
	項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)		B	「県民移動能」は、能楽の鑑賞機会の少ない地域に能楽師が出向き、児童、生徒等に生の舞台芸術にふれる機会や、能楽の体験の機会を提供し、児童・生徒等が本県の豊かな古典芸能の理解を深めることに貢献している。 県民移動能鑑賞者数 H27:541人(H26:530人) 公演回数 H27:2回(H26:2回)				
	今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	本県を代表する古典芸能である能楽に触れる機会の少ない児童、生徒にとって、本事業は優れた舞台芸術に触れる等の貴重な経験のできる場となっており、実施校からは、芸術の素晴らしさを感じ、芸術愛好の心情の醸成につながるなどの意見が多い。よって、引き続き、鑑賞や体験の機会を提供していく。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	障害者のための文化芸術ふれあい推進事業費	事業開始年度	H9	事業終了予定年度		作 組 織	文化振興課
		根拠法令 ・計画等				成 職・氏名	専門員 橋岡 千春
						者 電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3847

事業の背景・目的
 障害の有無に関わらず、相互に人格と個性を尊重し支え合う共生社会を実現することで、より幅広い層の県民に石川の文化にふれる機会を提供する。

事業の概要
 1 事業名 ふれてみるいしかわの文化展
 2 会 場 石川県立歴史博物館
 3 期 間 平成27年12月3日(木)～9日(水) 7日間
 4 対 象 主に障害のある方(視覚障害者や車椅子使用者等)、一般県民
 5 内 容 彫刻展、親子彫刻ワークショップ、ガイドツアー 等

これまでの見直し状況
 H18:触れることが可能な伝統工芸品の展示
 H19: " 歴史資料の展示
 H20:朗読観賞会の充実(2回実施)
 H21:音楽観賞会の開催
 H22:音楽鑑賞会における体験コーナーの実施
 H23:来場者が自由に参加できるワークショップを実施
 H24:歴史資料等をクイズ形式で展示
 H25:県立図書館職員によるおはなしの会(手遊び、パネルシアター等)を実施
 H26:県立図書館職員によるおはなしの会(手遊び、ペープサート等)を実施

施策・課題の状況							
施策	文化に親しむ環境づくり					評価	A
課題	文化に親しむ環境づくり						
	指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数			単位	人	
	目標値	現状値					
	平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	13,500	13,199	12,679	11,609	13,200	12,235	
事業費							
	(単位:千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
事業費	予算	600	600	480	400	1,000	
	決算	600	600	480	400	1,000	
一般	予算	600	600	480	400	0	
	決算	600	600	480	400	0	
事業費累計		24,484	25,084	25,564	25,964	26,964	
評価							
	項目	評価	左記の評価の理由				
	事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	平成9年3月に本県が制定した「石川県バリアフリー社会の推進に関する条例」を踏まえ、「ふれてみるいしかわの文化展」では、著名な彫刻家の作品をじかに触れて鑑賞する機会等を提供し、文化事業のソフト面においてもバリアフリー化を推進し、障害のある方も含めより幅広い層の県民に本県の文化に触れる機会を提供することに貢献している。 入場者数 H27:1,397人(H26:949人) 平均入場者数 H27:200人/日(H26:190人/日) 入場者のうち障害者数 H27:99人、(H26:43人)				
	今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	芸術を鑑賞する機会が限定されがちな障害のある方にとって、本事業は芸術に触れる経験のできる貴重な場となっており、障害のある方や一般県民の、芸術に親しむ心情及び、バリアフリー社会に関する意識の醸成に資している。				

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	音楽堂自主事業費補助金	事業開始年度	H14	事業終了予定年度		作 組 織	文化振興課
		根拠法令 ・計画等				成 職・氏名	専門員 乾 康祐
						者 電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3850

事業の背景・目的
 藩政時代から培われてきた邦楽文化と、オーケストラ・アンサンブル金沢に代表される洋楽文化の発信拠点としての音楽堂において、魅力ある多彩な自主事業を実施し、石川の音楽文化の振興を図る。

- 事業の概要**
- 1 音楽堂自主事業基本コンセプト
 - A 優れた演奏家の招聘
 - B 若手・地元芸術家の支援
 - C 音楽ファンの拡大
 - 2 事業内容
 - (1)コンサートホール(12事業)
 - ・東アジア国際交流コンサート
 - ・アフタヌーンコンサート
 - ・オペラ「滝の白糸」
 - ・ファンタスティック・クラシカル・コンサート
 - ・ランチタイムコンサート 他
 - (2)邦楽ホール(7事業)
 - ・文楽公演
 - ・ふれあい伝統芸能ランド
 - ・音楽堂寄席 他
 - (3)交流ホール(4事業)
 - ・おしゃべりクラシック
 - ・音楽堂室内楽コンサート
 - ・カルチャーナビ
 - ・ミュージック・グリーティング

計 23事業

3 補助金額
15,000千円

4 総事業費
197,600千円

うち県補助金	15,000千円
文化振興基金助成	50,000千円
文化庁助成	38,700千円
入場料・協賛金	93,900千円

施策・課題の状況							
施策	文化に親しむ環境づくり					評価	A
課題	文化に親しむ環境づくり						
施策	文化の交流・発信					評価	A
課題	文化の交流・発信						
	指標	音楽堂入場者数				単位	人
	目標値	現状値					
	平成29年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	265,000	238,543	265,158	250,272	206,473	262,241	
事業費							
	(単位:千円)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
事業費	予算	21,196	17,817	15,847	15,000	15,000	
	決算	21,196	17,817	15,847	15,000	15,000	
財源	予算	21,196	17,817	15,847	15,000	15,000	
	決算	21,196	17,817	15,847	15,000	15,000	
事業費累計		76,216	94,033	109,880	124,880	139,880	
評価							
項目	評価	左記の評価の理由					
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	県民が通常鑑賞する機会が少ない世界的な演奏家の招聘や、クラシックや伝統芸能のファン層を拡大するための魅力ある多彩な公演を実施することで、石川の音楽文化の振興に効果があった。					
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	洋楽から伝統芸能まで、幅広いジャンルの中から県民ニーズに見合い、且つ、本県の音楽文化の振興に資する事業を精選し、質の高い公演を提供していく。					

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	地域文化振興推進事業費補助金	事業開始年度	H2	事業終了予定年度	
		根拠法令			
		・計画等			

作	組	織	文化振興課		
成	職	氏名	専門員 乾 康祐		
者	電	話	番	号	
			076	-	225 - 1372 内線 3850

事業の背景・目的
現代音楽の作曲や県民がオーケストラへの親しみと理解を深める事業、ジュニアオーケストラ及びアンサンブル金沢合唱団の振興育成を図る事業などに補助することにより、本県の音楽文化の普及向上を図る。

事業の概要
① 芸術文化創作事業
コンポーザー・オブ・ザ・イヤーとして著名作曲家にオーケストラ・アンサンブル金沢のレパートリーとなる現代音楽の作曲を委嘱し、新しい音楽の創造を図る。(委嘱作曲家:一柳慧)

② 特別文化事業の開催
バレエやオペラなど、クラシック音楽以外の音楽愛好家も対象とした音楽文化の普及事業や、他のオーケストラとの共演、芸術文化創作事業により作曲された新作現代曲を披露する演奏会を開催する。
・オペラ「夕鶴」
日時 平成28年3月1日 会場 金沢歌劇座

③ オーケストラ実践講習会
県内中学生・高校生やアマチュア音楽指導者を対象にオーケストラ・アンサンブル金沢楽団員等による講習会を開催し、本県の音楽水準の向上と人材の育成を図る。

④ ジュニア・オーケストラ育成事業
小学校4年生から中学校3年生までの生徒で構成するジュニア・オーケストラの育成を図り、青少年の音楽資質の向上に寄与する。

⑤ オーケストラ・アンサンブル金沢合唱団育成事業
アマチュアの合唱愛好家を募り、その合唱団の育成を図り、音楽文化の普及に寄与する。

⑥ 新人登竜門コンサートの開催
オーディション:弦楽器部門 審査委員:井上音楽監督 他
演奏会:H27.4.14(H26選考:ピアノ部門) 県立音楽堂

補助金額 10,000千円 (石川県・金沢市 同額補助)

これまでの見直し状況
※ H17年度から地域文化振興推進事業費補助金と音楽文化普及事業費補助金を統合

施策・課題の状況						
施策	文化に親しむ環境づくり				評価	A
課題	文化に親しむ環境づくり					
	指標	音楽堂入場者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成29年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	265,000	238,543	265,158	250,272	206,473	262,241

事業費						
(単位:千円)		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
事業費	予算	10,700	10,700	10,700	10,000	10,000
	決算	10,700	10,700	10,700	10,000	10,000
一般財源	予算	10,700	10,700	10,700	10,000	10,000
	決算	10,700	10,700	10,700	10,000	10,000
事業費累計		293,700	293,700	304,400	315,100	325,100

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	ジュニア・オーケストラおよびオーケストラ・アンサンブル金沢合唱団を、ラ・フォル・ジュルネ金沢音楽祭やOEK定期公演へ出演出来るレベルにまで育成し、本県の音楽文化を担う次世代層のレベル向上に貢献するとともに、オーケストラ・アンサンブル金沢楽団員等による実践講習会等を通じて、音楽文化の普及にも貢献した。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	県民がオーケストラへの親しみを深める事業や本県の音楽文化を担う次世代層の育成を図る事業は、本県の音楽文化の普及向上を図るうえで、大変重要な役割を担っているため、引き続き、各種事業に創意工夫を凝らしながら取り組んでいく。